

# えこあっぷ!

2003.11 No.2

発行：滝川市 森のかがく活動センター 〒 073-8686 滝川市大町1丁目2番15号 電話 0125-23-1234 (内線 1754)

## 9月27日(土)森の科学活動センター定例講座 第1回「有機農作物について」が行われました

この講座の第1回目は勇気農作物を栽培する基本的内容を講義と展示・観察によって理解していただくことです。参加者は20名。「食生活」の根源をなす重要な要素であることから、参加者の有機農作物への関心はとても高い様子でした。講座はテキストによる座学と顕微鏡を使用して実際の土を観察するなど、“理論と実践”セットで行われました。

この講座は明年以降、地域の人々の参加のもと、より食生活・農産物栽培の具体的内容を掘り下げて進めていくことといたします。より多くの地域の人々を巻き込んで活動の実を向上させていきたいと考えています。

たきかわ環境フォーラムでは、今後もどんどん情報を発信していきますので、仲間を誘ってご参加くださるようお願いいたします。  
文章：高橋 敬治

### 有機農作物とは...

私達食生活に供される農作物を無機質肥料にたよらず、有機質肥料を用い、身体に有害な農薬や除草剤をできるだけ軽減し安全な農作物を生産すること。

### 有機栽培の意義

#### イ) 有機栽培

- 1) 土壤保全  
作土の維持肥沃度の増加  
微生物の繁殖・増強
- 2) 安全な食材の確保  
人間の体にやさしい安全な食材を造る  
おいしい食材づくり

#### ロ) 有機農作物栽培の基本

- 1 農作物を栽培する土壌を自然の状態に還す(自然農法)
- 2 私たちの食材を安全かつ栄養分を基準に保つ
- 3 有害物質をできるだけ使用しない(農薬・除草剤・抗生物質など)
- 4 無機質肥料を有機質肥料に変えてゆく
- 5 作物栽培の基本をしっかり身につける(理論と実践について)

### 有機質肥料とその効果

#### イ) 有機質肥料

- 腐植・・・腐葉・・・ピートモス・・・堆きゅう肥
- 粕類・・・大豆粕・・・魚粕、なたね粕等

#### 機能および効

- 植物環境
  - 土壌の膨軟化(孔隙の増加)、団粒化
  - 微生物活動の促進
  - 養分保持、緩衝作用(供給速度の調節)
  - 水分保持
- 環境保全
  - 土壤汚染害軽減

## たきかわ環境フォーラム メンバー紹介

## ～理想のレファ室をつくろう！～

「レファレンス/環境教育」と「木工室」の準備ワークショップを担当し、おまけに本誌「えこあっぷ！」の編集委員も引き受けてしまった。興味ある分野に出会うとつい首を突っ込んでしまうこの性格、取材記者らしいキャラといえればそれまでだけれど、お陰で課題のスケジュール消化に悲鳴を上げているのだから世話はない(じつはこの原稿も1週間遅れで書いてマス)。

とはいえもちろん、こうした新しいグループの立ち上げ準備が、ワクワク楽しいものでないわけがない。たきかわ環境フォーラムは、ほとんど初対面同士の寄せ集め集団だが、夏ごろからほぼ毎週のように会合を重ね、いま次第に方向性が見えてきた。各運営委員がそれぞれ描く夢を出し合う段階を過ぎ、いまは新設の「森のかがく活動センター」でフォーラムが何をするのか、何ができるのか、具体的なプランを煮詰めている段階だ。

レファレンスとは「調べもの」のこと。センター2階には自然について学ぶためのレファレンス室が作られる。本棚に自然分野の書籍や雑誌を並べ、インターネットに接続したパーソナルコンピュータでウェブ上の情報を引き出せるようにする。

本やウェブから引き出せる情報は「二次情報」に過ぎない。せっかく外に本物の野鳥たちが遊んでいるのに、窓辺にも寄らないで、図鑑で鳥を見てウェブで鳴き声を聞くだけで満足してしまうなんて、ジョークでしかない。本と実物と、順序はどちらでもいいが、同時に両方を体験できるレファレンス室が理想だと思う。レファ室には、図鑑を何冊も広げておける大テーブルとともに、庭を望む窓辺に双眼鏡を常備するつもりだ。

レファレンスには上手・下手がある。必要な情報をずばり見つけたときの喜びは、手製の毛鉤に魚が食いついた瞬間のそれと似ている。レファ室の主な利用者に児童・生徒を見込んでいるが、そんなレファ初心者たちにレファレンスの喜びを伝授するのもレファ室の目標だ。どんなふうになれば調べものがうまくいくか、調べもののしやすいレファレンス室とはどんな姿か、それを練り上げるためのワークショップを11月から開く予定だが、講師はレファのプロともいえる市立図書館の司書さんたちだ。

自然分野の調べものなら「森のかがく活動センター」へ。いつかそんなふうの評判のたつようなレファ室に育て上げられたら最高だ。

平田 剛士 (ひらた つよし)

地方紙記者を経て1991年からフリーライターに。環境問題を中心に取材・執筆を続け、著書に『北海道ワイルドライフ・レポート』(平凡社)、『エイリアン・スピーシーズ～在来生態系を脅かす移入種たち』(緑風出版)、『ルポ・日本の生物多様性』(地人書館)など。滝川市西町在住。38歳

## 施設ご案内

滝川市森のかがく活動センターは、空知川を目前に望む空知町に位置しています。

ただいま改装工事・展示物作成と公開準備作業の真っ最中！  
開館に向けて大忙しです。

〒073-0034

滝川市空知町2丁目6番31号

滝川市森のかがく活動センター



# えこあっぷ！宣言

- みんなでエコアップ！ - 第3回 なぜ、エコアップか

さて、エコアップの目的、について考えてみましょう。

エコアップの目的は、身近な緑の確保、生き物との触れあい、環境学習等々いろいろあります。しかし、最終的な、そして理想の目標は、「生物多様生」を守ることです。

生物多様生 (biological diversity) とは、簡単に言うと、「多種多様な生き物が存在すること」です。

例えば見た目は緑でも、同じ種類の、人工的に植えられた木だけの森には、限られた種類の生き物しか暮らせません。本当の自然の森は、地形や地質、気候や歴史に応じて、様々な種類の植物や動物が暮らす、複雑な世界です。

また、環境に適応しながら多くの種類の生物が暮らす世界では、たくさんの種類が互いに影響しあうため、一つの種類だけが増えすぎるようなことがなく、大雨などの災害にも強く、地域の気象を安定させる役割を果たします。

そのような多くの生き物がいる環境こそが、きれいな水や空気、いろいろな食べ物を私たちに与えてくれる、豊かな自然であり、長い年月をかけて地球が育んできた財産です。それが生物多様性なのです。

ですから私たちは、生物多様性を、なるべく損なわずに次の世代に引き継いで行く責任があるのです。

ところで、生物多様性を守るといって、遠くの原始の森や貴重な生き物の保護などを考えがちです。

ですが、私たちの暮らしを豊かにするためには、身近な川や林や公園、ちょっとした空き地などで、生き物が暮らしていける環境を守ったり、豊かにしたりすることも大切なことです。自然の豊かさは、暮らしの豊かさです。身近な生物多様性は、人の心を豊かにし、おいしい水や食べ物、様々な楽しみを与えてくれます。

特に日本では、原始のままの自然より、昔から人々の暮らしの場であった身近な自然の方が、ずっと広い面積を占めていますから、身近な生物多様性を守ることが、この国全体の生物多様性を守るためにも大切なのです。

そして、生物多様性は、私たちの身の周りから世界へとつながっています。身の回りから生き物が姿を消すと、世界の生物多様性が失われます。逆に、身近な生物多様性を守ることは、日本や世界全体で生物多様性を守ることにつながるのです。

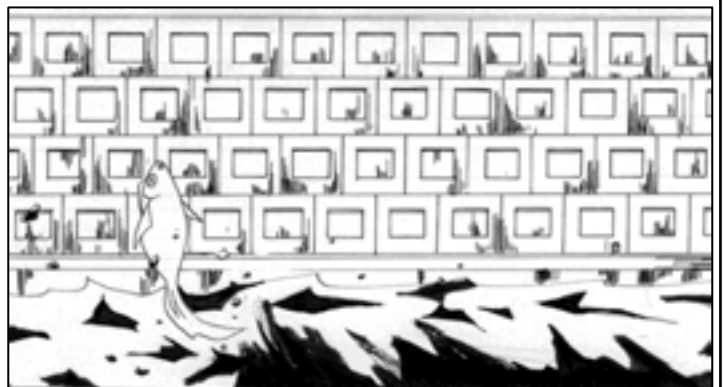
しかし今の日本では、自然が細切れにされ、多様性を失っています。自然の回復力には限界がありますから、今のように、森や川、農地などを生き物の暮らしづらいように“きれいに”整備して行くと、どんどん生き物がいなくなってしまう。自然を守り、私たちの暮らしを豊かにするためには、残された自然を守るだけでなく、生物多様性を豊かにする努力が必要なのです。

ではどうしたらよいでしょうか。

今私たちの住んでいる場所を、急に昔の森や原野に戻すことはできませんが、残された自然を守りながら、庭や公園などのあちこちで、少しずつ生き物の種類を増やしていくことは、庭に草花を増やしていくように、少しの知識と工夫があれば、楽しみながら、誰でもができることです。

このように、我々の身の回りで、それぞれができる範囲で、工夫しながら自然をより豊かにして、生物多様性を守って行こうとする方法が、エコアップです。

『地球規模で考え、地域から行動しよう』(Think globally, Act locally) という言葉があります。エコアップは、地球環境を守るための行動なのです。



上) 生き物のことを考えない川は、魚の隠れ家や産卵場所も、餌の昆虫も少ない。

下) 石や植物で流れに変化をつけた、生物多様性豊かな川。

[イラスト：藤原 どり][文章：武田 忠義]

滝川市 森のかがく活動センター 定例講座

えこあっぷ! のご案内

参加申し込み・お問い合わせは、滝川市教育委員会 文化振興課 23-1234 (内線1754) まで。

1 1 月開催講座 たきかわ環境フォーラム・パネルディスカッション

開講日：平成15年11月9日(日)  
 時間：午後1時～3時  
 場所：美術自然史館  
 講師：吉沢 隆司(たきかわ環境フォーラム)  
 定員：なし  
 参加費：無料

テーマ：森のかがく活動センターをどう活用するか...  
 一般参加を募集します。たきかわ環境フォーラムメンバーと一緒に、人と自然環境との関わりについて話しませんか？

1 1 月開催講座 環境レファレンス・ワークショップ(第1回)  
 「レファレンスって何ですか？」

開講日：平成15年11月29日(土)  
 時間：午後3時30分～午後5時  
 場所：美術自然史館2階会議室  
 講師：滝川市立図書館司書  
 定員：なし  
 参加費：無料

テーマ：「森のかがく活動センター」レファレンス室(仮称)の整備と活用方法を議論する勉強会の第1回。「レファレンスって何ですか」と題し、レファレンスについて基礎的な知識を深め、参加者同士で共有することを目的とします。プロの図書館司書に図書館でのレファレンス活動の実際を学びます。

ニックネーム・シンボルマーク募集!

「森のかがく活動センター」では、施設の愛称とシンボルマークを募集します。親しみやすく覚えやすい、自然環境に配慮した未来への明るい展望を感じさせるニックネーム(愛称)とシンボルマークの応募を期待しております。

**応募規定** ニックネーム(愛称)：ふりがなを併記して 簡単な説明、住所、氏名、電話番号、年齢を明記し、次の応募先宛に郵送してください。

シンボルマーク：マークのデザインに簡単な説明、住所、氏名、電話番号、年齢を明記し、次の応募先宛に郵送してください。

応募資格及び応募点数に制限はありません。ただし応募1通につき1点、自作未発表作品に限らせていただきます。採用作品の一切の権利は滝川市森のかがく活動センターに帰属しますとともに、使用の際に補作、修作する場合がありますことをご了承願います。

**応募先** 〒073-8686 滝川市大町1丁目2番15号  
 滝川市教育委員会文化振興課「森のかがく活動センター愛称募集係」  
 電話 23-1234 (内線 1754) FAX 24-1024

**応募締切** 平成16年3月31日(水)当日消印有効

**発表** ・森のかがく活動センター情報誌「えこあっぷ!」平成16年5月号  
 (平成16年4月30日発行予定)にて発表します。  
 ・広報たきかわ平成16年5月号にて発表いたします。  
 ・発表後、受賞者に直接お知らせします。

**賞** ニックネーム(愛称)：優秀作品1点。(同名多数の場合は抽選で選出)  
 受賞者には、賞状と副賞(えこあっぷ!セット)を贈呈。  
 シンボルマーク：優秀作品1点。  
 受賞者には、賞状と副賞(えこあっぷ!セット)を贈呈。

2003年11月27日発行

発行者：滝川市森のかがく活動センター

編集：たきかわ環境フォーラム

〒073-8686 滝川市大町1丁目2番15号 電話 0125-23-1234 (内線 1754)